

編集部 = 竹中光子、中務佐代子、上溝敏子、飯田憲三 knziid@gmail.com 090-6665-3750

トピックス 9月より部会活動順次再開 14期生臨時講座第1回は9/23予定

今号は4頁

- 9月の活動 開催見込み 部会活動は各部会の判断により順次再開としています。
開催予定は野鳥、昆虫、山歩き、石ころ、マップ、里山の6部会（詳細はHPで。なお、吟行はメール句会）
- 14期生臨時講座は23日（水）富田林市錦織公園で草木、昆虫、野鳥の観察を予定しています。
- ML月一回発行へ 活動の一部再開に伴い MLは今年より月1回（第2水曜日）発行となります。

十人十色ひろば 今回は自然カレッジ副理事長としてご活躍の砂本貞夫さん（3期生）です



3期生でカレッジの受講を始めて以来12年になりますが初めての事態に困惑の毎日です。欲張って六つの部会に参加していますが、すべて休止、当然のことながら反省会も無くなって、生活のペースが大幅に変わってしまいました。

MLは毎回楽しく拝見していますが、皆さん、状況の許す範囲で活発に活動されていますね。私は生来の出不精で、自宅に文字どおり籠っています。楽しみは常勝巨人軍のナイターTV観戦（阪神ファンの奥さんに遠慮しながら）と一人反省会です。

昼間はDVとコロナ離婚を避けるためにもっぱら自室で昔読んだ本を再読しています。その中でカレッジライフに関係ありそうな言葉をピックアップして見ました。江戸時代の言志四録に「少にして学べば壮にして成す事あり、壮にして学べば老いて衰えず、老にして学べば死して朽ちず」とか、論語に「知るは好むに如かず、好むは楽しむに如かず」というのがありました。拳拳服膺して活動の再開に備えたいと思います。皆さん、再会までご自愛ください。

編集部 拳拳服膺・けんけんふくよう = 「心に銘記し常に忘れないでいること」と書いてありました。

ワンダーワールド 「いのちの営み探検部会」の活動／選 今回は 蒴果についてYTさんより

植物は子孫を残すために知恵をつかいます（蒴果の話）

夏の終わりに里山や湿地を歩いているとツリフネソウの可愛い花を見つけることがあります。

今回は秋口にできる実のタネ飛ばしの話です。

成熟した実を軽く触るとタネがばね仕掛のようにはじけます（音はしません？、目に入らないように注意）。

少しでも子孫を遠くに広げるために、このように果実が熟すと果皮が乾燥などで裂けてタネを飛ばす果実を蒴果（さくか）といいます。

自身で飛ばす蒴果には（私案の分類ですが）

- ①コイルバネ仕掛け ツリフネソウ、ハウセンカ、ヤブツルアズキ
- ②板ばね仕掛け ゲンノショウコ、フウロソウ
- ③はさみバネ仕掛け スミレ、カタバミ



ツリフネソウ



キツリフネ



花後にできる実



はじけた後

また、風などがキッカケで飛ばす蒴果にはムクゲ、フヨウ、ウバユリ、サルスベリ などがあります。

9月に入ると秋の渡りのシーズンが始まり、干潟ではシギやチドリの仲間が急に増え始めます。シギやチドリはアラスカやシベリヤなどで夏に繁殖し、東南アジアやオセアニアで越冬する鳥達で、日本を通過するだけの旅鳥がほとんどです。日本で記録されているシギ科の鳥は58種、チドリ科の鳥は15種ですが、なかには日本で繁殖や越冬する種もいます。さほど大きくもないシギチ（シギ・チドリ）がどうしてこれだけの長距離を移動するのか不思議ですが、最近では渡りのルートや日数、場所もかなり分かってきていますが、行動についてはまだまだ謎が多いようです。



イカルチドリ (左)

コチドリ (右)

シギ科とチドリ科の違いは何でしょう。一般的にシギはチドリより体長が大きいです、中にはトウネン（シギ科）のようにチドリより小さなものもいます。シギ科のクチバシは長く、チドリ科のクチバシは短いです、キョウジョシギ（シギ科）は短いです。シギ科の足指は4本ですがミユビシギは3本です。チドリ科は後指がない3本指ですが、ダイゼン、ケリ、タゲリは4本です。



オオソリハシシギ (手前)、アオアシシギ (奥)

その違いは採食の仕方にあります。シギは、嘴が細くて、泥などに嘴を差し入れながらゆっくり歩き回り採食します。それは嘴の触角で食べ物を探ることができる「触角定位」をもっているからで、水中でも捕食ができます。一方、チドリは、陸部で獲物を自身の目でとらえて見つけたとそちらへ動きクチバシで餌を挿み採食します。身体の割に眼が大きく、暗くても視覚で獲物を探し易いようになっています。

今度、シギチに出会うようなことがありましたら、その採食行動を観察するのもおもしろいですね。



トウネン

(シギ科)

しぜん訪ねて

ウォーキング、自然観察で使うことのある千早口駅近辺の物語り TMさんより



千早口駅

千早の索道

和歌山県境近くに南海高野線「千早口駅」があるが、ここを最寄り駅に延命寺や地藏寺など里山歩きや山歩きもできる。駅近くには高野街道が走り、南北朝時代に後村上天皇が賀名生から天野山金剛寺へ向かう途中、一夜を明かされたという「御所の辻」がある。また観心寺領であった此处には岩瀬の関（関銭徴収）が置かれたこともあり、交通の要衝であった。

ところで千早口駅は「千早」というが、もちろん河内長野市にあり、千早方面へバスが運行されているわけでもない。実は千早口駅は戦前、金剛山への玄関口であった。先ほどの御所の辻にある道標に「右 かうや、左かうんこうせみち（金剛山のここと）」とあり、確かに距離的に千早へは近い。あまり知られていないが、千早村で作られた凍り豆腐の輸送用として大正9年に千早口～千早間（5km）に「千早索道」（ロープウェイ）が設置され、戦時中の金属回収のころまで運転されていたという。

ところで千早の索道と言えば、昨年3月運休となり運転再開のめどが立っていない「金剛山ロープウェイ」のことが気がかりだ。『実は平成のころまで山麓の千早から山上まで索道（1.3km）があったんですよ』と後の世の語り草にならぬよう一日も早い運転再開を願うところである。（TM）



野の花このごろ

今回は **ハギの花** について **MKさん**よりのレポート

秋の花といえば、その国字にあるように**萩**でしょう。

秋の七草の一つでもあるハギは**万葉集**の中で**最も多く詠まれた花**で、それだけ古くから日本人に親しまれてきたようです。名前の由来には、茎を残して毎年新しい芽を出すことから「生芽（はえぎ）」が「はぎ」に変化したとも。一般的に萩といえば特定の種を指すのではなく、マメ科ハギ属ヤマハギ節に属する落葉低木を総称として言います。ただし万葉集のハギはその頃普通に見られた**ヤマハギ**のことを指しているようです。



ヤマハギ



マルバハギ
(花序花柄が短い)

ヤマハギ節にはヤマハギの他に、キハギ、ケハギ、ツクシハギ、**マルバハギ**等が日本に自生していますが、**ミヤギノハギ**は栽培種で、枝が枝垂れ花の見栄えもよく公園や庭園に植樹されています。

マメ科ハギ属には**草本多年草**で白色系の花を付けるメドハギ、イヌハギ、ネコハギも含まれますが、ハギ属以外にもヌスビトハギ、アレチヌスビトハギ（外来種）にハギの名があります。これらの葉は全て3出複葉で、夏から秋の花期になると、上部の枝の葉の付け根から花序を出し、多数の蝶形で大方は赤紫色系統の花（一部のハギは白色系）を咲かせます。

他にも、センダイハギ（春に花を咲かせ色は黄色）やイタチハギ（外来種木本、春に開花、花色は濃紫色）さらに常緑の多年草のヒメハギ（ヒメハギ科、春から夏に開花、花色は淡紅色）にその名がありますが、どこか似ている個所があるのでしょうか、見た目はハギとかけ離れていますが・・・。



ミヤギノハギ
(小葉の先が尖る)



ネコハギ (多年草)



メドハギ(多年草)

ハギは、マメ科特有の根粒菌との共生で、痩せた土地でも良く育つことから道路斜面、治山などの緑化に植えられてきましたので、今でも身近に咲く秋の花といえますね。

里山だより

ようやく雨に恵まれた里山のこのごろ・・・

MAさんよりのレポート

9月になりました。**やっと夕立**があり、カラカラだったミカン山・畑も喜んでます。そして草々も更に勢いを増しどんどん伸び続けます。

里山の作業のメインはやはり草刈ですが、楽しみもあります。草を刈っていると草むらの中に、秋の花が見つかります。

里山遊びは、いつも楽しみいっぱい。今回は見つけた草花を紹介しましょう。

ピンクの花が目を引く**ガガイモ**は近づくと甘い匂い。斜面には**ツリガネニンジン**の可愛い姿。茫茫たる草むらに**アキノタムラソウ**、**ミソハギ**。これらは刈らずに残しましょう。紅紫の小さな花は**タチカモメヅル**だと思います。これらの草花は、いずれも花期は8～10月とのことです。

農道には**キンミズヒキ**、**イヌタデ**がたくさん咲いています。



ツリガネニンジン



キンミズヒキ



イヌタデ



ガガイモ



ミソハギ



タチカモメヅル

叢
に
露
で
装
う
秋
の
花

(注)ミソハギはミソハギ科で萩の仲間ではない

コシアキトンボ (正面)



ナツアカネ (正面)



8月は暑すぎて散歩の回数も大幅に減りましたが、トンボはいつもいてくれました。今回は8月に出会ったトンボの写真をお届けします。トンボも正面から見るととても愛嬌のある顔をしています。

- ・コシアキトンボ=体と一緒に顔も白黒ハッキリ。
- ・ナツアカネ=ハート型の顔。

また、8月はトンボにとって恋の季節のようです。

- ・生垣の上のアキアカネ(井上さん提供)
 - ・水草の菱に止まるギンヤンマ
 - ・フェンスの上のシオカラトンボ
- など、様々な場所で交尾が見られました。

トンボは肉食で飛んでいる昆虫を空中で捕まえ、枝に降りて食事します。写真は**捕食中のシオカラトンボ**で、食べられてるのはベニシジミ？



捕食中のシオカラトンボ



ハラビロトンボ♀を捕まえ、腹側を見ると卵を持っています。(この後、水中に放ちました；井上さん提供)

アキアカネの交尾



ギンヤンマの交尾



シオカラトンボの交尾



コロナ済んだら行きたいな！

「けん」の旅日記

少人数で行く旬の旅 ④

9月 宮崎・生駒高原 コスモスの海

コスモスの花が大好きな方には、ぜひ9月に宮崎・小林市の生駒高原を訪ねて頂きたい、と思います。

100万本ものコスモスが高原を埋め尽くし、**コスモスの海**が広がっています。

濃く抜けるような青空の下、風吹き渡り、コスモスの海はサワサワと優しく揺れ続けています。

秋風はさざ波の風 海草のような葉のなか 揺れるコスモス (俵万智)



現役時代の勤務経験以降、宮崎は私の大好きな土地となり、近年は毎年訪れるようになりました。生駒高原は、春の菜の花、初夏のポピー、秋のコスモスなど花で埋まる時期に宮崎に降り立つのなら、ぜひ訪れたい行先です。

たった一種類の花だけで広い高原を埋め尽くす

「潔さ」に惚れ惚れしてしまいます。

コスモスの時期、同じ小林市の「萩の茶屋」では400万本のヒガンバナが咲き誇っています。

宮崎は空も風も花も素敵ですが、土地の人々ももっと素敵かも知れません。

初夏のポピー



大らかで優しく、時間をゆったり流しながら生きておられる。折にふれ「てげてげで良かっちゃがあー」=テキトーで良いのよ=と仰います。シニアになった今日、私も、この言葉を呟きながら、のんびりゆったり生きたいものだ、と願っています。(けん)